

公立大学法人和歌山県立医科大学

平成 23 事業年度の業務実績に関する評価結果

【案】

和歌山県公立大学法人評価委員会

公立大学法人和歌山県立医科大学の平成23事業年度に関する業務実績の評価について

和歌山県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、地方独立行政法人法第28条の規定により、公立大学法人和歌山県立医科大学（以下「法人」という。）の平成23年度業務実績に関する年度評価を実施しました。

年度評価は、中期計画に基づき法人が作成した年度計画について、評価委員会が当該年度の実施状況の調査及び分析を行い業務実績全体について総合的に評定を行うものです。

今回の年度評価は、第一期中期目標期間の最終年度の評価で、法人から提出された業務実績報告書及び法人に対するヒアリング等により、年度計画の実績及び法人の自己評価の妥当性を総合的に評価しました。

評価委員会としては、今回の年度評価の結果が今後の法人及び大学運営に積極的に活用され、効率化、活性化等が図られることにより、教育研究並びに診療活動が一層の充実とするとともに法人の業務運営状況に対する~~ついて~~県民のより一層の理解が深まることを期待します。

~~なお、今回の評価委員会による年度評価を踏まえ、翌年度以降の年度評価について、改善・充実に
関することが重要であると考えています。~~

平成 年 月 日

和歌山県公立大学法人評価委員会

目 次

第1 全体評価

1 総 評	1
2 特色ある取組等	2

第2 項目別評価

1 教育研究等の質の向上	
(1) 教 育	4
(2) 研 究	5
(3) 附属病院	7
(4) 地域貢献	8
(5) 産官学の連携	8
(6) 国際交流	9
2 業務運営の改善及び効率化	
(1) 運営体制の改善	9
(2) 教育研究組織の見直し	10
(3) 人事の適正化	10
(4) 事務等の効率化合理化	10
3 財務内容の改善	
(1) 外部研究資金その他の自己収入の増加	10
(2) 経費の抑制	11
(3) 資産の運用管理の改善	11
4 自己点検・評価及び情報提供	
(1) 評価の充実	11
(2) 情報公開等の推進	11
5 その他業務運営	
(1) 施設及び設備の整備・活用等	12
(2) 安全管理	12
(3) 基本的人権の尊重	12

第1 全体評価

1 総 評

- 「公立大学法人和歌山県立医科大学は、医学及び保健看護学に関する学術の中心として、基礎的、総合的な知識と高度で専門的な学術を教授研究し、豊かな人間性と高邁な倫理観に富む資質の高い人材の育成を図り、地域医療の充実などの県民の期待に応えることによって地域の発展に貢献し、人類の健康福祉の向上に寄与する。」という基本的な目標のもと、この1年間、公立大学法人として求められている「地域に開かれた大学」及び「地域社会への貢献」という使命を果たすべく、より良い大学教育と地域医療を実現するために、教職員が一丸となり組織の充実・拡充と事業の拡大に取り組んだと認められる。
 - 平成23年度計画218項目の実施状況を確認したところ、~~11~~16項目について「年度計画を上回っている。」と認められ、~~205~~200項目が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、2項目については、努力は認められるものの、十分年度計画を実施していないという結果であります。これらを総合的に勘案すると、中期目標・中期計画の達成に向け、全体的には概ね順調に進んでいると評価する。~~認められる。~~
 - 特に、以下の取組について評価する。
 - ・ 医師国家試験合格率の改善（23年度：96.9%←22年度：88.4%）
 - ・ 医学知識及び臨床技能教育、ケアマインド教育（ケアの精神を学び気づかせる豊かな人間性涵養を目的とした教育）を融合させた「プラグマティズム的臨床医育成プログラム（患者評価に立脚した実践的臨床医育成プログラム）」の推進による質の高い医療人育成に向けた取組
 - ・ 紀北分院の病床稼働率の大幅な改善（23年度：75.1%←22年度：50.5%）及び入院診療稼働額の増加（23年度：886百万円←22年度：624百万円）による経営改善
 - ・ 7対1看護体制の実施による手厚い看護体制の提供
 - ・ 東日本大震災、台風12号における災害派遣医療チーム、医療救護チームの派遣活動等の被災地支援
- 一方、「年度計画を十分には実施していない」との結果となった保健看護学研究科博士課程（仮称）の平成24年4月開設に向けた取組、助産師国家試験の合格率100%を目指すとの計画については、いずれも努力を行っているが、目標の達成には至らなかった。
- 保健看護学研究科博士課程（仮称）については、さらなる体制の充実を図るため、平成25年4月の開設を目指している。また、助産師国家試験の合格率90%は、決して低い数字ではなく、今後、目標の達成に向けさらなる努力がなされることを期待したい。
- 平成23年度は第一期中期目標期間の最終年度であり、その集大成として、教育、研究、診療、経営面などさまざまな取組を実施し、また、和歌山県における医学及び保健看護学に関する教育・臨床・研究の中心として活動することで、地域の発展にも大きく貢献している。第二期以降においては、教育研究、人材育成、大学組織及び運営の在り方についてのさらなる改革に取り組み、法人として大きく発展していくことを期待する。

2 特色ある取組等

【教育】

- 「プラグマティズム的臨床医育成プログラム」を導入し、体験実習及び臨床実習における知識・技能教育とケアマインド教育を融合させ、患者満足度の向上につながる医療を提供できる臨床医の育成を推進した。

老人福祉施設実習	保育所実習	障害者施設実習	臨床実習
100名	99名	99名	60名(5年生) 58名(6年生)

- 学生の学外実習、研修医の院外研修を実施し、早期から地域と接することにより地域医療への関心を高めた。

学外実習参加者数	20名
----------	-----

- 国家試験形式に準じた卒業試験の実施、試験内容の精度検定による不適切問題の排除、ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）に準拠した卒業判定基準の改定及び経年的な卒業時成績の解析を踏まえた厳正な判定を行うことで、医師国家試験合格率の改善が見られた。

医師国家試験合格率	H23	H22
	96.9% (全国9位)	88.4%

【研究】

- 企業との共同研究、産官学連携推進のための「異業種交流会」「医工連携セミナー」を開催した。

	延べ参加社数	延べ参加人数	相談件数
H23	57社	154人	10件
H22	48社	138人	5件

- 「次世代リーダー賞」及び「若手研究奨励賞」の審査を行い、優秀な若手研究者への顕彰を行った。引き続き、研究へのインセンティブという視点を持ち、若手が研究に取り組めるような環境づくりが望まれる。

次世代リーダー賞	1名
若手研究奨励賞	4名

【附属病院】

- 7対1看護体制の実施について、看護師の確保、新人看護職員臨床研修制度及び継続教育の充実を図るなど質の維持に向けての取組を行った。

	看護職員数	外部研修受講者数	延べ研修受講者数
H23	714人	73人	2,489人(58研修)
H22	696人	85人	2,910人(77研修)

- ドクターヘリの活用及び観察ベッド（オーバーナイトベッド）12床の設置（H24年1月）など、救急医療の充実に努めた。

ドクターヘリによる搬送患者数	374人
観察ベッド利用患者数	731人

- 平成23年11月に[※]連携登録医制度を立ち上げ、予約枠の拡大及び逆紹介の推進を図り、登録医と診療情報を共有しやすい体制を整え、地域医療機関との診療連携を推進した。

※ 連携登録医制度：和歌山県立医科大学附属病院と県内及び隣接する府県の医療機関が相互に協力して、県民が必要とする良質で適切な医療を提供するために、医療機能の役割分担と連携をより緊密にし、医療の充実と発展を図ることを目的とした制度

登録医数	547名
------	------

- 災害時において、災害派遣医療チーム及び医療救護チームの派遣活動を行った。
南海地震や東南海地震などを含めた災害時において地域の基幹病院としての機能が発揮できるような体制の構築に努められたい。
- 紀北分院において、病床稼働率が前年度を大きく上回り、経営改善に向けた取組が評価される。

病床稼働率	H23	H22
(延べ入院患者数+退院患者数) / 稼働病床数 × 365日	75.1%	50.5%

- 緩和ケア研修及び各種研修会の開催など、平成22年度に作成した5大がんの地域連携パスの本格運用などがん診療体制の充実に資する取組を行った。

	H23	H22
緩和ケア研修会受講者(修了者)数 (研修回数)	92名 (8回)	108名 (7回)
研修会・講演会参加者数 (研修回数)	200名 (3回)	300名 (4回)
[※] 地域連携パス(大腸、胃、肝臓、肺、乳)件数	91件	—
がん相談支援センター相談件数	2,440件	2,385件

※ 地域連携パス：急性期病院から回復期病院を経て、早期に自宅に帰れるような診療計画を作成し、治療を受ける全ての医療機関で共有して用いられる診療計画表

- 5名の診断書クラーク(事務員)を配置し、診断書発行までの時間短縮ができた。を図った。

診断書の受付から発行まで日数	H23	H22
	7.2日	7.9日

第2 項目別評価

評定の区分	S・・・特筆すべき進捗状況にある。 A・・・順調に進んでいる。 B・・・概ね順調に進んでいる。 C・・・やや遅れている。 D・・・重大な改善事項がある。
-------	--

1 教育研究等の質の向上

(1) 教育

【評定】B (概ね順調に進んでいる。)

年度計画の記載 471 事項中 469 事項が「年度計画を上回って実施している。」又は「十分に実施している。」と認められるが、2 事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

〈全般〉

- 「人間としての在り方や生き方に関する深い洞察力や理解力の育成」という中期計画に基づき、全学的に教育改革を進めていることを評価する。
- 学生への教育の質を上げるために大学独自の教育にチャレンジし、公立大学の使命として、地域のリーダーを担う人材育成に努めることが望まれる。
- 留年等を余儀なくされた学生に対する精神面を含めた今後のケアが求められる。

〈医学部〉

- 「プラグマティズム的臨床医育成プログラム」の推進を図り、体験実習及び臨床実習において知識・技能を高め、ケアマインド教育を行い、質の高い医療人育成に努めたことについて評価する。

老人福祉施設実習	保育所実習	障害者施設実習	臨床実習
100 名	99 名	99 名	60 名 (5 年生) 58 名 (6 年生)

- 学生の国際交流の促進について、派遣学生数が大幅に増加し、新たに交流協定を締結したことについて評価する。

H23 派遣状況	山東大学	ハワイ大学	カリフォルニア大学	ハーバード大学
	7 名	1 名	4 名	3 名

※H22：4 校 9 名

- 医師国家試験合格率の改善を評価する。さらなる合格率向上に向け、対策を講じることが望まれる。

医師国家試験合格率	H23	H22
	96.9% (全国 9 位)	88.4%

- 卒業時 O S C E (客観的臨床能力試験) を実施し、臨床研修への移行が容易に行われるようカリキュラムを改定したことについて評価する。
- 臨床実習を 44 週から 50 週に延長したことに伴い、地域病院 (16 病院 80 診療科) での院外実習が可能となり、各病院での研修を 3～4 週間に延長したこと、地域医療への動機付けを行うことができたことについて評価する。

学外実習参加者数	20 名
----------	------

- 実習の多様化のみでは不十分であり、基礎科目の充実などさらなるカリキュラムの改善・工夫が必要である。

〈保健看護学部〉

- 附属病院看護師の保健看護学部への講師派遣等による大学と附属病院の協働について評価する。さらに協働した取組を発展させ、新しい看護モデル（和歌山モデル）を構築することが期待される。
- 実習については、大学と附属病院がお互いの課題の洗い出し作業を行い、その課題を達成するような方法を見出す必要がある。
- 学生の成績評価について、1学年ずつ全教員により総合的に判断していることについて評価する。

〈大学院医学研究科〉

- 大学院教育において、英文論文の執筆を推進する教育指針を定め、大学院の講義に取り込んでいることについて評価する。ただし、そのような取組が論文発表数や論文の質にどのように反映されているかの分析・評価が必要である。
- 大学院医学研究科（博士課程）の入学定員充足率が70.2%と低く、90%を満たしておらず、今後、定員の充足に向けた取組を講じる必要があり、入学者の学力水準に留意しながら、入学定員の適正化に関する対策が求められる。
- 大学院における教員相互の連携やファカルティディベロップメント（教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組）などの取組について、年度計画の記載が「中期計画完了」となっているが、これらは教育目標の達成に不可欠であり、継続して取り組むべき項目である。

〈大学院保健看護学研究科〉

- 大学院での研究において「大学院学生要覧」を作成し、研究指導を行う際の視点を定めたことについて評価する。
- 保健看護学研究科博士課程（仮称）については、開設が1年先送りされており、設置に向けて残された問題点の早期解決が望まれる。

〈助産学専攻科〉

- 助産師国家試験の合格率90%は決して低い数字ではないが、合格率100%に向けてさらなる努力が望まれる。

助産師国家試験合格率	H23	H22
	90%	100%

(2) 研究

【評定】A（順調に進んでいる。）

年度計画の記載23事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 緩和ケア研修、各種研修会の開催など、平成22年度に作成した5大がんの地域連携パスの本格運用などがん診療体制の充実に資する取組を行い、がん診療体制の充実に資する取組を行ったことについて評価する。

	H23	H22
緩和ケア研修会受講者(修了者)数 (研修回数)	92名 (8回)	108名 (7回)
研修会・講演会参加者数 (研修回数)	200名 (3回)	300名 (4回)
地域連携パス(大腸、胃、肝臓、肺、乳)件数	91件	—
がん相談支援センター相談件数	2,440件	2,385件

- 地域がん登録事業を開始し、県全体のがん対策の推進を図ったことについて評価する。

登録票	死亡票
6,646件	5,117件

- 若手研究者への顕彰を行い、研究活動の活性化を図ったことについて評価する。引き続き、研究者のモチベーションを高め、研究成果を学会や海外で発表していけるよう、学会発表数を増やすことが望まれる。
- 科学研究費、受託研究費などの外部資金導入額の増加は、新規研究分野の拡大につながるものであり、評価する。

(単位：千円)

	H23	H22
科学研究費	545,072	418,414
受託研究費	171,141	147,496
共同研究費	42,174	31,331
受託事業費	309,176	264,678

- ・科学研究費：研究活動に必要な資金を研究者に助成する制度（文科省、（独）日本学術振興会）
- ・受託研究：企業等からの委託を受けて研究を実施し、委託者に成果を報告する制度
- ・共同研究：企業等の研究者と大学の教員が共通の課題について、対等な立場で共同し研究を行う制度
- ・受託事業：企業から必要経費を受入れ、事業の委託を行うもの（病理検査、司法解剖等）

- 基礎的研究を重視する観点から、遺伝子制御学研究部を開設したことを評価する。
- 学内共同利用施設等において、研究機器を共用で整備する方針は効率的であり評価する。今後は、研究機器の稼働状況や研究成果として論文発表の実績などを示していくことが求められる。
- 治験体制の充実のため、平成23年8月より職員（臨時職員）を1名増員し、被験者（患者）の権利擁護及び安全確保を徹底しながら治験業務を実施し、昨年度から治験件数を増加させていることを評価する。

新規治験件数	H23	H22
	23件	16件

- 地域に密着した大学であり、英文論文だけでなく、別の視点での研究成果の評価も行っていく必要がある。
- 小・中・高校生等を対象にした出前授業を16回実施していることは評価するが、実施件数が減少していることに対する対策、テーマの再検証が必要である。

出前授業実施件数	H23	H22
	16件	27件

(3) 附属病院

【評定】A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載 59 事項中すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 7対1看護体制の導入については、診療面、運営面の両面において評価する。今後は、看護の質に関する指標を示し、質の維持・向上のための工夫を重ねることが期待される。
- 紀北分院の病床稼働率が大幅に増加したことは経営努力の表れであり、今後のさらなる努力が期待される。

病床稼働率	H23	H22
(延べ入院患者数+退院患者数) / 稼働病床数 × 365 日	75.1%	50.5%

- 平成 23 年 11 月に連携登録医制度を立ち上げ、予約枠の拡大及び逆紹介の推進を図り、登録医と診療情報を共有しやすい体制を整え、病病、病診連携の構築に努めたことについて評価する。

登録医数	547 名
------	-------

- 東日本大震災や台風 12 号の被災地に災害派遣医療チーム、医療救護チームを派遣し、医療救護活動を行ったことについて評価する。
- ドクターヘリを活用した患者の迅速な医療機関への搬送、観察ベッドの設置、各地域の二次救急医療機関との連携強化など、救命救急センターの診療活動について評価する。
- 臨床研修協力病院(他の病院と共同して臨床研修を行う病院)との連携を深め、25 の協力病院等で、延べ 149 名が臨床研修を実施したことについて評価する。
- 実習施設との連携について、大学及び附属病院として、どのようなプロセスを経て実習の目標を達成したかを提示できる連携モデルの構築が期待される。
- 県内の医療専門職員の育成と能力向上を図るため、コ・メディカル(医療に携わる職種の中で、医師・歯科医師以外の診療補助部門従事者)の実習受入れについて、今後も継続・発展させることが望まれるが、それにとどまらず、チーム医療に関する研修等の実施についても検討されたい。
- 医療安全に関する取組について、各所属のリスクマネージャー(危機管理者)を病院長が指名していることについて評価する。リスクマネジメントを病院全体に浸透させ、さらに発展させることが望まれる。
- クリニカルラダーシステム(看護師の臨床実践能力習熟段階制)の透明化を図ったことを評価する。今後は、専門看護師、認定看護師の増員が図られ、多様な能力を育成できるシステムの構築が期待される。

※1 専門看護師：特定の専門看護分野の知識及び技術を深め、保健医療福祉の発展に貢献し併せて看護学の向上を図ることを目的とした看護師

※2 認定看護師：特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践ができ、看護現場における看護ケアの広がりや質の向上を図ることを目的とした看護師

- 附属病院において、学生のボランティアを受け入れたことを評価する。今後は、授業の一環として単位化されることが望まれる。

新規ボランティア受入数	14名
-------------	-----

- チーム医療に関する年度計画のうち「中期計画完了」となっているものがあるが、患者本位の医療提供やチーム医療推進のためには引き続き努力を行っていく必要がある。

(4) 地域貢献

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載 15 事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 公立大学として、地域医療におけるリーダーシップを発揮し、県全体の医療行政に協力していくことが期待される。
- 地域医療枠の学生に対して、地域医療に携わる動機付けとなるセミナーや病院研修を実施したことについて評価する。学生の意欲をいかに継続させるかが課題であり、今後の和歌山県のへき地医療の包括的な支援が期待される。
- ドクターヘリの運用実績が上がっており、評価する。

出動件数	H23	H22
	392 件	384 件

- 東日本大震災や台風 12 号の被災地に災害派遣医療チーム、医療救護チームを派遣し、医療救護活動を行ったことについて評価する。
- 大学の地域貢献として、大学教員が地域病院等へ出向き、専門的な知識を教授・指導を行うことについて検討されたい。

(5) 産官学の連携

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載 4 事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 異業種交流会、和歌山医工連携セミナーを開催し、企業とのマッチングを促進したことについて評価する。さらなる産官学の連携を進めていくことが求められる。

	延べ参加社数	延べ参加人数	相談件数
H23	57 社	154 人	10 件
H22	48 社	138 人	5 件

- 寄附講座[※]「運動機能障害研究開発講座」の新規開設について評価する。今後、当該講座から得られた成果の内容を示していくことが望まれる。

※ 寄附講座：奨励を目的とする民間からの寄附金を有効活用し、大学の主体性の下に設置運営し、教育研究等の進展及び充実を図るとともに、地域振興等に大きな成果を生む制度

	H23	H22
寄附講座	8 講座 1 研究所	8 講座 1 研究所
受託研究	43 件	33 件
企業との共同研究	15 件	10 件

※継続分含む

(6) 国際交流

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載 4 事項すべてが、「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 新たにハワイ大学に学生を派遣したことについて評価する。また、派遣人数が前年度より増加した点について評価する。今後は、人材育成のため、教職員の海外研修などの取組も望まれる。

H23 派遣状況	山東大学	ハワイ大学	カリフォルニア大学	ハーバード大学
	7 名	1 名	4 名	3 名

※ H22：4 校 9 名

2 業務運営の改善及び効率化

(1) 運営体制の改善

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載 5 事項すべてが、「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- コンプライアンス (法令遵守) の強化を図るため、監事、会計監査人及び内部監査室が情報交換、意見交換できる場を設定したことについて評価する。今後、監査機能のさらなる充実が求められる。
- ~~○ 平成 18 年度から平成 23 年度まで、大学院博士課程の入学定員充足率が 90% を満たしておらず、今後、定員の充足に向けた取組を講じる必要がある。入学者の学力水準に留意しながら、入学定員の適正化に関する対策が求められる。~~
- 理事長がリーダーシップを発揮できる組織、経営戦略が機能する体制の構築に関する年度

計画が「中期計画完了」となっているが、引き続き取り組む必要のある項目である。

- 教員と事務職員が一体化して大学運営に積極的に取り組むという中期計画に基づく企画戦略機構の成果については、紀北分院の経営改善の検討だけにとどまらず、さまざまな成果が示されることを期待する。

(2) 教育研究組織の見直し

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載1事項すべてが、「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

(3) 人事の適正化

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 臨床実習の指導に協力する医療機関等の優れた医療人[※]に対して臨床教授等の称号を付与し、臨床実習の充実を図ったことについて評価する。

※臨床教授：指導医確保のために導入された制度。大学教官とともに、大学以外の医療機関の優れた人材が医療現場での豊かな経験を踏まえた医療の人材の育成に参加、協力している。具体的には、臨床病院で活躍中の医師にこの称号を付与し、医学生や研修医の臨床実習を指導している。

称号付与者数	臨床教授	臨床准教授	臨床講師	合計
	27名	8名	5名	40名

- 看護師の離職率が高い原因を迫及し、その対応策を検討するとともに厚生労働省の「看護師等の『雇用の質』向上プロジェクトチーム」がまとめた報告書を参考にするなど、労働環境の改善に努められたい。

(4) 事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画完了

【評価及び指摘事項】

- 事務等の効率化・合理化に関する年度計画がいずれも「中期計画完了」となっているが、「大学運営に関する専門性の向上を図るため、専門知識の習得や研修体制を確立するとともに、専門職員の導入を行う」ことが完了したかについて、検討する必要がある。

3 財務内容の改善

(1) 外部研究資金その他の自己収入の増加

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十

分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 7対1看護体制の導入により病院収入が増加したことについて評価する。
- 紀北分院について、病床稼働率が前年度より改善していること、また、そのための企画戦略機構での討論について評価する。

さらなる病床稼働率の向上を含め、財務基盤のあり方の検討が求められる。

病床稼働率	H23	H22
(延べ入院患者数+退院患者数) / 稼働病床数 × 365日)	75.1%	50.5%

(2) 経費の抑制

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 価格交渉支援コンサルタントの活用、予定価格の設定による**医薬材料**（医療用材料及び医薬品）の価格交渉における経費節減の努力について評価する。

	H23	H22
医薬材料費比率 (医薬材料費/医業収益)	34.65%	36.21%

- 電気、ガス及び医療材料費などの削減努力が行われているが、現時点ではその効果はわずかである。その他の経費削減も含めて全組織的な継続した取組になるよう期待したい。

(3) 資産の運用管理の改善

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載1事項が、「年度計画を十分に実施している。」と認められたことによる。

4 自己点検・評価及び情報提供

(1) 評価の充実

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

(2) 情報公開等の推進

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 病院広報誌「まんだらげ」、「病院だより」を発行し、病院の情報提供に努めたことについて評価する。
- ~~ホームページの頻回な更新など積極的な広報活動を評価するが、保健看護学部において策定されたカリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）及びディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）が評価実施時点ではホームページに掲載されておらず、速やかに公表することが求められる。~~

5 その他業務運営

(1) 施設及び設備の整備・活用等

【評定】 A（順調に進んでいる。）

年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 平成25年度完成予定の地域医療支援総合センター（仮称）の準備を進めたことについて評価する。へき地を含めた地域医療支援に大きな役割を果たすものと考えられ、今後の運用が期待される。

(2) 安全管理

【評定】 A（順調に進んでいる。）

年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

(3) 基本的人権の尊重

【評定】 A（順調に進んでいる。）

年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 紀北分院における医療相談件数の大幅な増加は、運営体制改善の一つの現れと考えられ、評価する。

	H23	H22
相談件数	253 件	45 件

- 患者等の人権相談に関する中期計画の実施状況として、本院および紀北分院の相談窓口における通常の相談業務について年度計画に記載されているが、中期計画に基づいた位置付けた項目毎の年度計画の作成、実施が重要である。

<資料>

○和歌山県公立大学法人評価委員会 委員名簿（敬称略）

氏 名	役 職 等
明 石 純	医療経営学研究所所長
坂 本 す が	公益社団法人日本看護協会会長
辻 省 次	東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻神経内科学教授
◎ 中 川 武 正	白浜町国民健康保険直営川添診療所所長
乗 杉 澄 夫	国立大学法人和歌山大学副学長
廣 内 幸 雄	高野町立高野山総合診療所院長

（注）◎印は委員長

○業務実績の評価に係る和歌山県公立大学法人評価委員会の開催状況

- ・ 第1回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成24年 7月 4日開催
- ・ 第2回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成24年 8月 1日開催
- ・ 第3回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成24年 8月22日開催

○大学収容定員等（平成23年4月1日現在）

	収容定員（人）	収容数（人）
医学部	500	503
保健看護学部	328	342
医学研究科	196	145
修士課程	28	28
博士課程	168	117
保健看護学研究科	24	32
助産学専攻科	10	10

○教職員数（平成23年6月1日現在）

総 数（人）	1, 417
教員	336
事務職員	97
技術職員	5
現業職員	14
医療技術部門職員	174
看護部門職員	782
研究補助職員	9

（出典）平成23年度和歌山県立医科大学概要